

施策マネジメントシート

基本施策名	2 2 市街地整備の推進(国立駅周辺地域・富士見台地域整備)	施策統括課	国立駅周辺整備課	氏名	関野 達也
政策名	7 都市基盤	主な関係課	まちの振興課、工事担当、富士見台地域まちづくり担当、生涯学習課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ・市民 ・市内全域
--

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称		単位
ア	人口	人
イ	市域面積	km ²
ウ		
エ		



施策の目的 それぞれの地域の特性に合った都市機能の整備が行われ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えた良好な市街地を形成します。
--

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)		単位
1	ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%
	イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人
2	ア 富士見台地域の居住人口	人
	イ	
3	ア	
	イ	
4	ア	
	イ	



2 第1次基本計画期間(平成28~令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1	回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり 文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めます。	国立駅北口、南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 市民に必要な機能を有する公共施設整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 文化財である旧国立駅舎を再築し、国立大学町のまちづくりの歴史を今に伝え、市への愛着を醸成するとともに、国立駅周辺の景観構造を回復し、「まちづくりの駅」として、まちの回遊性を高める役割を担う拠点として整備します。
2	だれもが住みやすい富士見台地域のまちづくり 富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが住みやすい理想的な住空間とし、老いても若くても安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。	地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を示した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」を実現するため、協議します。 富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	目標達成度	
対象指標	ア		見込み値	74,558	74,541	74,511	74,459	74,415	74,440	74,293	74,145	73,965	目標達成度	
			実績値	74,558	75,054	75,466	75,932	75,984						
	イ		見込み値											
			実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	達成・未達成
	ウ		見込み値											
			実績値											
	エ		見込み値											
			実績値											
成果指標	展開方向1	ア	成り行き値	38.9	51.3	55.3	66.1	68.2	74.8	85.4	87.2	89.8	達成	向上
			目標値	46.3	59.3	63.6	75.1	77.1	80.8	84.8	88.1	92.3		
		実績値	46.3	59.3	63.6	75.1	77.1							
		基本計画における指標の説明又は出典元		「国立駅周辺まちづくり基本計画」でまとめた事業の事業費ベースの進捗率を基に設定しました。										
	イ	成り行き値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	未達成	維持
		目標値	0	0	300	500	750	1,000	30,000	60,000	100,000			
	実績値	0	0	373	361	351								
	基本計画における指標の説明又は出典元		検討等に参加する人数、国立駅の乗降客数を考慮して設定しました。											
	展開方向2	ア	成り行き値	17,184	16,983	16,781	16,565	16,332	16,093	15,854	15,616	15,359	達成	維持
			目標値	17,184	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	18,000	18,000	18,000		
		実績値	17,184	17,427	17,730	17,742	17,615	17,636						
		基本計画における指標の説明又は出典元		基本計画策定時に行った将来人口推計では、今後の富士見台地域の住環境整備により人口増を期待している数値としている。										
	イ	成り行き値												
		目標値												
	実績値													
	基本計画における指標の説明又は出典元													
展開方向3	ア	成り行き値												
		目標値												
	実績値													
	基本計画における指標の説明又は出典元													
イ	成り行き値													
	目標値													
実績値														
基本計画における指標の説明又は出典元														
展開方向4	ア	成り行き値												
		目標値												
	実績値													
	基本計画における指標の説明又は出典元													
イ	成り行き値													
	目標値													
実績値														
基本計画における指標の説明又は出典元														
事務事業数		本数		5	5	6	5							
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		220,715		326,700	99,200					
			都道府県支出金	千円		368,849	46,190	257,250	69,048					
			地方債	千円		102,800								
			その他	千円		481,620	19,650	121,037						
			一般財源	千円		43,050	26,149		381,114					
			事業費計(A)	千円	0	1,217,034	91,989	704,987	549,362	0	0	0	0	
	人件費	延べ業務時間	時間		12,730	14,700	18,900	9,690						
		人件費計(B)	千円		63,650	73,500	94,500	48,450						
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	1,280,684	165,489	799,487	597,812	0	0	0	0		

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

【展開方向1】

前年度と同様、個別事業の整備が進んでいる。一方で、状況の変化により、さらなる協議検討が必要な事業も生じている。

【展開方向2】

富士見台地域の人口は、地区によっては微減があるものの、世帯数は横ばいである。近年、大規模マンションへの入居や集合住宅の建設が見られること、さらには都営矢川北アパートの建替え後の戻り入居も進んでおり、総体として大きな変動がなかったと考えられる。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

[国立駅周辺地域]
 ・平成25(2013)年度にJR中央線連続立体交差事業が完了し、国立駅周辺整備事業の着手が可能となった。
 ・平成27(2015)年4月に、国に都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として旧国立駅舎再築事業等3事業が採択された。
 ・国立駅周辺の道路整備事業に関しては、東京都の市町村土木費補助の支援を受けて行うこととなった。
 ・国立駅周辺の交通計画は、交通管理者と段階を分けて協議を行い、平成27(2015)年4月に北口駅前広場、北1号線、西1号線、西1条線(延伸部含む)、平成28(2016)年1月に南口駅前広場、東1号線の協議を終了している。
 ・平成30(2018)年5月に国立駅前にたちこくぶんじ市民プラザを開設し、平成31(2019)年3月に国立駅北口駅前広場が完成した。
 ・令和2(2020)年2月に旧国立駅舎が再築され、4月に開業した。
 [富士見台地域]
 ・1965(昭和40)年に完成した、国立富士見台団地は、創設から50年が経過し、日本各地にある、多くの団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。
 ・東京都により、矢川駅の近くにある都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでいる。居住者の高齢化率は高く、建て替え後の団地で安心して暮らすことのできる環境の整備をどのようにするのが問われている。
 ・平成29(2017)年度に策定した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現を目指し、平成30年度から3か年計画で、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」の検討を進めている。検討にあたっては、行政・住民・まちづくり関係者が一体となって進めている。
 ・都営矢川北アパートの建て替えに伴い生じる空地を東京都から借り受け、保育園及び、児童館等を含む、多世代が利用できる複合施設を整備するために、東京都との協議が進められてきた。
 ・令和2(2020)年、東京都と国立市の間で、土地利用の協定書が結ばれた。〈くにたち子どもの夢・未来事業団〉が運営する矢川保育園は、土地の賃貸借契約も整い、令和3(2023)年の開設に向けて、建設工事を開始した。複合公共施設(矢川プラザ)については、令和4(2022)年度の開設に向けて、実施設計を行っている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

[国立駅周辺地域]
 ・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。
 [富士見台地域]
 ・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
 ・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。
 ・矢川プラザについては、日常的に子どもから高齢者まで多世代が過ごせる居場所づくりの観点から、市民より様々な意見と期待が寄せられている。

(3) 施策の取組状況

元年度の取組状況	2年度の取組予定
・都市計画道路3・4・10号線(南工区)の引込連係管工事を実施した。 ・国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線の電線共同溝工事を実施した。 ・旧国立駅舎再築工事を完了させた。また、再築後の旧国立駅舎の活用に向けて、活用方針に基づき、空間デザイン、管理運営方法・体制などを決定し、開設準備を進めた。 ・隣接地権者と協議、検討を行い、南口複合公共施設用地と隣接地の用地交換を行うという方針をまとめた。 ・「富士見台地域重点まちづくり構想」の策定に向けて、住民主体の協議会を立ち上げ、「富士見台ミーティング(オープン参加型ワークショップ)」を年間を通じて開催した(全4回)。また、庁内検討、大学機関との共同研究の深度を深め、構想の整備方針(たたき台)をまとめた。 ・(仮)矢川プラザ及び複合公共施設に関する基本計画及び基本設計を策定した。	・都市計画道路3・4・10号線(南工区)の道路築造工事をを行う。 ・国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線及び西第1条線延伸部の道路築造工事をを行う。 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。 ・旧国立駅舎の将来的な管理運営方法について検討する。 ・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論する。 ・隣接地権者と引き続き、用地交換に向けて協議、検討を行い、合意を目指す。 ・矢川プラザの実施設計を完成させ、次年度の建設工事にに向けて進めていく。令和4(2022)年度中の開設に向けて管理運営面の検討を進めていく。

6 元年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

・国立駅周辺地域においては、旧国立駅舎再築工事が完了し、駅周辺の回遊性を高めるとともに賑わいを創出するために必要な機能を備えた施設となるよう令和2年度の開設準備を進めた。国立駅南口駅前整備を検討する上で、必要となる隣接地権者と用地交換の協議を進め、用地交換の方針をお互いに確認した。
 ・富士見台地域においては、令和2(2020)年度までの3か年計画で「富士見台地域重点まちづくり構想」を策定するため、立場の異なる8名の公募市民委員を含む「国立市富士見台地域まちづくり協議会」を立ち上げ、協議会が主催する連続市民ワークショップ「富士見台ミーティング」を4回実施した。富士見台ミーティングでは構想をまとめる上で重要な住民意見を効果的に収集し、整備方針(たたき台)をまとめた。
 ・矢川公共用地の活用に向けて、東京都とも協議しながら、矢川プラザ施設整備の基本計画及び基本設計をまとめた。検討に際しては、ワークショップ及び説明会を実施し、住民意見の反映に努めた。

○改善余地のある事項・課題等

・国立駅周辺のまちづくりにおいて、旧国立駅舎、国立駅南口複合公共施設用地、南口駅前広場及び円形公園等をどのように活用していくか検討する必要がある。
 ・富士見台地域のまちづくりにおいては、住民主体のプロセス自体にも大きな意味があるため、ポストコロナ・ウィズコロナを意識し、対面式以外の手法を取り入れていく必要がある。

(2) 施策の元年度における総合評価

B	成果実績数値の評価(A~E)に、定性的要素を加味した評価 A: 目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B: 一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C: 成果向上のため、一層の努力が求められる。 D: 成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E: 現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
----------	---

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 3年度の取組方針

・国立駅周辺道路等整備事業を引き続き関係機関と協議を行い、順次調査、設計、工事を進めていく。
 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、市民や地元活動団体等に意見を聞きながらまちの魅力発信拠点として活用する。
 ・旧国立駅舎の将来的な管理運営方法について検討を進める。
 ・隣接地権者と用地交換協議をすすめるとともに用地交換後の国立駅周辺についても検討する。
 ・行政、住民、まちづくり関係者、専門機関が一体となって、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」を策定する。
 ・これまでの住民の方の声を参考に「矢川プラザ(矢川複合公共施設)」の実施設計をまとめ、次年度からの建設工事につなげる。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・国立駅周辺地域を回遊性のある空間とするために、コロナ禍による財政的な事情も十分考慮した上で、それぞれの事業を適切に進めていく。
 ・国立駅周辺道路等整備事業については、引き続き関係機関と協議を行い、令和7年度末の完成を目指し、順次調査、設計、工事を進めていく。
 ・旧国立駅舎をまちの魅力発信拠点として活用する。
 ・ハードソフト両面の事業を行うことにより、国立駅周辺地域を回遊性のあるまちにする。
 ・「富士見台地域重点まちづくり構想」に基づき、行政を含めたまちづくり関係者が、富士見台地域まちづくりビジョンに描いたまちの将来像実現のための事業に着手できるようにする。
 ・地域全体で子育てを応援し、多世代の居場所にもなる矢川プラザ(矢川複合公共施設)の施設整備を進め、地域のにぎわい拠点とする。